

ずいそう

福岡の「OTHER MUSIC」を求めて

岩本英司



10月末、福岡・天神にあった輸入レコード店「ジュークレコード」が閉店となりました。1977年の開店から45年の歴史を積み重ねた同店の店主・松本康さんが9月27日にご逝去されたことに伴うものです。享年72歳。福岡の音楽シーン「めんたいロック」の立役者でもあった松本さんの死を悼み、閉店までの間に行われたセールには、多くの音楽ファンが訪れていました。

1. めんたいロックをけん引

松本さんの死は、福岡を拠点とする西日本新聞でも報じられました。めんたいロックの代表格でもあるサンハウス、シーナ & ザ・ロケッツの中心メンバーでギタリストの鮎川誠さんは「康ちゃんは『ロックを少しでもたくさんの人に好きになってもらいたい』という、純粋な思いを持ち続けていた」と同紙にコメントを寄せています。この言葉からも分かるように、松本さんは福岡の音楽をそのルーツまで掘り下げて紹介するけん引者でした。

本稿を執筆する今、傍らに置いて聴いているのはサンハウスの復活ライブを収録したCD「風よ吹け」です。松本さん制作のこのCDを閉店セールで見つけ、購入しました。

東京の本社編集局で記者として活動していた私は、2020年1月に天神にある九州支社へ異動となりました。東京の自宅に家族を残したままの単身生活も間もなく3年が過ぎようとしています。初の地方勤務とほぼ同時期に始まった新型コロナウイルスの感染拡大により、単身生活にも否応なく制限が掛かります。1人で過ごす福岡でのプライベートな活動といえば、都市部からも近い自然に触れることができる週末のサイクリングと数々のレコード店巡りでした。

ボーダーライン、グルーヴィン、田口商店、キャットフィッシュレコード…等々。天神界隈にお勤めされたことがある音楽好きな方であれば、それらの名前を一度は耳にして、実際に訪れたこともあるのではないのでしょうか。私も仕事帰りに個性が異なるそれらのお

店に立ち寄っては、お勧めや掘り出しモノの音楽がなにかを物色しています。

そんな数々のレコード店の中核的な存在ともいえるジュークレコードは会社から最も近い場所にあり、度々訪れていました。しかし、すでに病床にあったという松本さんがお店に立たれる姿を拝見することは結局かなわないまま、今回ご逝去の報に接することとなりました。本当に残念なことです。



写真-1 10月末で閉店したジュークレコードの入口

2. 時代のうねりの中で

レコードやCDなどを通じて音楽に触れてきた生活は、インターネット通信販売やサブスクリプション(サブスク)による音楽配信が主流となることに伴い、大きく変化しています。長引くコロナ下での生活は、そうした流れに拍車を掛けているようです。1990年代のCD全盛時に連日賑わっていた大型店舗も数自体が減り、残る店舗でも客がまばらな状況です。時代のすう勢には抗えないのかと思うと、少しさみしくもなります。

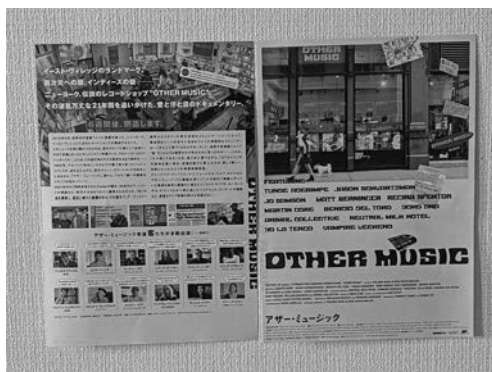
松本さんがご逝去された時を同じくして、音楽好きの間で話題となった映画「アザーミュージック (OTHER MUSIC)」が福岡でも公開となり、天神の外れにある小さな映画館、KBCシネマへ観に行きました。

米ニューヨークのイースト・ヴィレッジにあった同名のレコードショップが2016年5月に閉店するまで

の様子に経営者や風変わりなスタッフ、店に訪れた人たちの証言をちりばめたドキュメンタリー映画です。

巨大チェーン、タワーレコードの向かいにあることから、その名が付けられたアザーミュージック。アーティストと客をつなぐ双方向の理想的なコミュニティを育みながら数々の音楽が紹介されていきました。店員や客にとって大切な場所でしたが、2001年のニューヨーク同時多発テロやiTunesの誕生などによる時代の大きなうねりに翻弄される中で、閉店という道を選んだ同店の足跡をたどった映画は、青春群像物語ともいえるものでした。

映画後半にお店の棚などが運び出された後、フロアの塗装が剥げ落ちた箇所を指して「そこは人気のコーナーがあった場所だ」などと述懐する店主の言葉には、何とも言えない思いがこみ上げてきました。情報が簡単に入る現状の中でも、そこに行かないと見つけられない音楽がある。お勧めの音楽を紹介してくれる店員との会話を楽しみにしていた客も多かった同店の閉店は、世界中の音楽ファンに激震が走ったといえます。



写真—2 映画「OTHER MUSIC」のチラシ

3. 街の外れで探したお店

単身赴任生活の中で続けてきた私の店舗巡りは、OTHER MUSIC、のようなお店を福岡で探すものでもありました。そうした中で出会ったお店の一つが「アッサンプラージュ」という中古レコード・CD店です。前述の店舗の数々が繁華街の天神を中心とする福岡市中央区にある一方、市の西端にある西区の自然にも手が届きそうな場所に店舗を構えています。

輸入販売を行う会社に勤められた後、インターネットでのレコード、CD販売を手掛けてきた店主の大里謙二さんは、2017年に店舗を開業。今はネットと店舗での販売を両立されています。現代アート好きでもあった大里さんが名付けた店名は「融合」を意味して

いて、あらゆるジャンルの音楽を紹介していくという意気込みを示したものでもあるそうです。お互い年齢が近い事もあり、音楽や時にはプライベートな話題にも踏み込んだ情報交換をさせてもらっています。

エルヴィスプレスリーに代表されるロカビリー〜ロックンロール、フィルスペクターが制作しウォール・オブ・サウンドと称される数々の音楽、美しいハーモニーを奏でるビーチボーイズなど、1950〜1960年代の音楽が好きという共通項があり、それらへの造詣も深い大里さんからは色々なことを教わってきました。お店のホームページ(<https://www.assemblage-cd.com/>)やSNS(ツイッター、インスタグラム、ユーチューブ等)を通じて、各種情報も発信されていますので、ぜひ一度ご覧頂ければと思います。

そんな大里さんは松本さんを慕い、レコード店主として自身の目標にもしているとのこと。お店を始める際に、松本さんがレコード店とともに経営していたロックバーでお酒の力も借りて「松本さんと同じ仕事ができることが夢のようです」と伝えたところ、何ともうれしそうにされていたお顔が今も忘れられないそうです。



写真—3 福岡市西区のアッサンプラージュ



写真—4 店主の大里さん